

(株)イオでは、PFAS等を対象とした各種試験を受け付けています（ジャーテスト、吸着等温線試験、RSSCT、パイロットスケール試験）。

各種試験の解説

	ベンチスケール試験			パイロットスケール試験
	ジャーテスト	吸着等温線試験	RSSCT	
主な目的	・前処理薬品の効果予測・適正量の確認	・動的モデルの実現性と平衡試験／活性炭又は樹脂のスクリーニング	活性炭又は樹脂の運動性能の予測モデル開発	実規模で実施可能な処理性の評価
対象処理技術	粉末活性炭	粒状活性炭 イオン交換樹脂	粒状活性炭 イオン交換樹脂	粒状活性炭 イオン交換樹脂 NF/RO膜
実施期間	1日	1～4週間	4～16週間	6～18か月
得られる主なデータ	・適切な薬品注入量	・相対的な除去率 ・活性炭又は樹脂の吸着性能 ・反応速度の指標	・活性炭又は樹脂の吸着性能 ・反応速度の指標 ・完全な破過曲線	・長期的な除去率 ・物質間の競合性や潜在的な処理能力の問題に関する水質データ ・パイロット装置の規模に基づく設計基準 ・処理水の腐食性
制約	・水質の季節的変動は考慮されていない。	・パイロットスケールの検証で活性炭や樹脂の選定に役立つ定性的なデータが中心となる。 ・水質の季節的変動は考慮されていない。	・特に粒状活性炭の場合、活性炭粉砕時に細孔特性が失われるため、フルスケールでの再現が難しい。 ・水質の季節的変動が考慮されていない。	・実規模への拡張性が最も高いが、テスト期間が長く、関連コストが高くなる。

【参考文献】

水道におけるPFASの処理技術等に関する研究会「水道におけるPFASの処理技術等に関する資料集」、2023（令和5年）11月



ジャーテスター



振とう装置
(吸着等温線試験用)



ポンプ
(RSSCT 試験用)